
作者とオリキャラのバトルロワイヤル

疾風の音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作者とオリキャラのバトルロワイヤル

【Nコード】

N8548Z

【作者名】

疾風の音

【あらすじ】

とある日、40人の男女……。其所に突然、殺し合い（バトルロワイヤル）に巻き込まれた……。果たして、40人に降りかかる悲劇は！*前書きを出てきた登場人物を、後書きに状態を書いていきます。

ゲームスタート(前書き)

スマッシュさんの視点にしてみました。

ゲームスタート

ふと気付いたら、俺は、いや俺達は薄暗い会場に居た。

折原 空

「大丈夫ですか？」

スマッシュ

「ああ……だが……ここは何処だ……？」

しら

「薄暗い所だな……」

するとスポットライトが当てられ、1人の男が現れた。

疾風の音

「皆さんこんばんは、私は主催者の疾風の音と言います」

秋雨 涙

「主催者？」

疾風の音

「そうです」

男、疾風の音はニヤリとした顔をした。

疾風の音

「この会場内に居る皆さんには、これより最後の1人になるまで・・・」

疾風の音

「殺し合いをしてもらいます」

辺りがざわつき出してきた。

それもそうだ、いきなり殺し合えと言ったのだから。

スマッシュ

「まっ、待てよ!」

俺は勿論、男に突っ掛かった。

スマッシュ

「いきなり殺し合いをしてもらうってどう言う事だ！」

疾風の音

「それは私からは言えません」

阪神虎之介

「言えないだと・・・！」

疾風の音

「ええ、私から言えることは殺し合うルールを言うだけです。質問は一切お答えできません」

霊宮空刀

「貴様・・・そんな事を許してたまるか！」

パアーン・・・

いきなり霊宮空刀の頬に血が流れる・・・。

見てみれば、疾風の音が銃を放っていた。

疾風の音

「貴方達の私語や質問等は一切お答えできませんと言った筈です」

何も躊躇いなく人に向けて銃を放った・・・。

人として最低の行動を取りやがった・・・。

スマッシュ

「人間の心が無いのか・・・！」

疾風の音

「皆さん静かになりましたね？それでは、ルールを説明しましょう。」

┌

ルール

最後の1人となるまで時間無制限に殺し合いを行う。

場所は5km x 5kmの500m毎で1つのエリアである。

放送は6時間毎に行い、放送と同時に禁止エリアが3つ指定される。

時間内に禁止エリアを抜け出さなければ、装着されている首輪が発動される。

24時間以内に1人を殺さなければ、全員の首輪が発動される。

支給品はランダムで送られる為、何のアイテムが手に入るか分からない。

疾風の音

「既に支給品は渡してありますので・・・それでは・・・これより、バトルロワイヤルの開幕を宣言します」

すると、いきなり大きな魔法陣が現れて、俺達は消えていった……。

疾風の音

「これで良いのですか？ゼロ」

ゼロと言われた謎の男……。

ゼロ

「お疲れ、疾音^{しおん}」

疾音

「あゝあ……変装するの疲れたわ……これで良いのよね」

疾風の音は疾音と呼ばれた女が変装していた。

ゼロ

「ああ……これで、あの計画も……」

ゼロの言う計画とは！そして魔法陣によって消えていった者達の運命は！

参加者リスト（前書き）

抜けていないか確認してください。

参加者リスト

参加者リスト は生存 は死亡

男

アクロス / 泉涼 / 英霊ユウジ / カイ・R・銃王 / 熊谷雅之 / 郡司侑輝 / 榊原直久 / 死神魔姫 / 疾風の音 / しら / スマッシュ / スライムマン / デビル(黒井卓真) / トライ / ス・ドレット / ハデス / パルポン / 阪神虎之介 / ピッキー / 星空刃夜斗 / 棒人間 / 横浜学園都市部 / ryouki / ルファイト / 霊宮空刀

女

秋雨涙 / エンジェル(浅間りな) / 折原空 / 川崎貴子 / 紅真朱璃 / 黒龍美牙 / ジョディ・ブローリー / セーラ / テルカ / デイスペイト / 紀葉 / 墓守レイカ / 瑞希優羅 / ミル / 宮籬煉華 / 八木紀葉

シスターとパーカー青年（前書き）

登場人物

セーラ、靈宮空刀

シスターとパーカー青年

セーラ

「うっん・・・はっ！ここは・・・？」

セーラが目を覚ました所は、町エリアの中だった。

セーラ

「聖職者の私を殺し合いに参加させるなんて・・・遺憾よ！」

そう、彼女は聖職者、所謂シスターなのだ。神に仕える者がこのような場所に置かれてしまった。

セーラ

「・・・取り敢えず何か入っているのか、見ないといけないわ」

。セーラが支給品が何か見る為に、バックの中を調べようとした時・・・

???

「おい」

セーラ

「ひっ！な・・・何なの！？」

そこに現れた男は眼鏡をしていて青のパーカーをしていた。

セーラはその男を見た瞬間、身体が震えていた。

セーラ

「い・・・いや・・・やめて・・・殺さないで・・・」

???

「待て、俺は・・・」

セーラ

「やだ・・・まだ死にたくない・・・死にたく・・・」

???

「だから俺は殺し合いに乗っていない！」

セーラ

「え？本当に？」

男は事情を説明した。

セーラ

「じゃあ貴方も主催者を倒す為に動いているのね」

霊宮空刀

「ああ、俺は霊宮空刀、こんな殺し合いは乗っていない。主催者である疾風の音を倒す」

セーラ

「でも、最後の1人になるまで殺し合いは続くのよ！」

霊宮空刀

「参加者名簿は見えていないのか？」

セーラ

「え？今から見る予定なんだけど・・・」

霊宮空刀

「そうか、なら支給品も見ないといけないな」

セーラはバックを開けて支給品が何か見てみた。

霊宮空刀

「何か見つかったか？」

セーラ

「いいえ、傘は入ってたけど・・・」

セーラが持っているのは桃色の傘、とても綺麗だが武器にはなれない。

セーラ

「霊宮は何かあったの？」

霊宮空刀

「いや、武器になりそうなのは無かったな。次は参加者名簿だ」

2人は参加者名簿を見た。

セーラ

「あっ！名前が書かれてるわ！」

霊宮空刀

「主催者も参加者名簿に入っていた。つまり、疾風の音を倒す事が出来れば、この殺し合いを止める事が出来るかも知れないからな」

セーラ

「なら、私も手伝うわ！」

霊宮空刀

「大丈夫なのか？」

セーラ

「私を誰だと思っているの？私は主催者を止めるわ！これはリーダーである私の命令よ！」

霊宮空刀

「それは良い心掛けだが何時リーダーになったんだ？」

セーラ

「今決めたわ、さあ！リーダーの私に着いてきなさい！」

霊宮空刀

（アニメで言う涼宮ハルヒだな・・・）

2人は歩き出した、主催者を倒す為に。

しかし、2人は気付いていない、主催者は変装していた事を・・・。

更に疾風の音は何も知らないまま殺し合いの場に居ることも・・・。

シスターとパーカー青年（後書き）

現在の状態（町エリアB-3）

セーラ

状態：正常

装備：風見幽香の傘@東方Project

持っている物：バック一式

思考1：リーダーは私よ！

思考2：殺し合いを止めるため、疾風の音を倒す。

移動：町エリアB-3 B-2

*バックの中を見ました。

霊宮空刀

状態：正常

装備：なし

持っている物：バック一式

思考：殺し合い打倒の為に仲間を集め、主催者を倒す

移動：町エリアB-3 B-2

*バックを見ましたが武器は無かった様です

@風見幽香の傘

説明：東方Projectに登場する風見幽香が愛用している傘、生半可な銃弾なら防げる。

死神の名のある者と知り合いの心配をする赤魔導師（前書き）

登場人物

死神魔姫、アクロス

死神の名のある者と知り合いの心配をする赤魔導師

死神魔姫

「太刀じゃないのか・・・、まあ武器にはなるかな」

洞窟の中でバックを明けていた死神魔姫。彼が持っているのはダガーナイフ。

死神魔姫

「この殺し合いで1人になるまで続くのか・・・」

あの主催者は許せなかった、1人になるまで殺し合いをしてもらう事に。

しかし、24時間以内に1人でも死ななければ、参加者全員的首輪が発動される。

死神魔姫

「俺は帰りたい・・・皆の所に、その為には・・・この殺し合いに・・・乗ってやる」

死神魔姫、死神の名の元に殺し合いの場へと足を進む。

彼はもう、あの頃のような生活は送れないのかも知れない。

それでも帰らなければならぬ……。

死神魔姫

「まずは洞窟から抜け出さないとぬ」

彼は名前の通り、殺し合いに乗り、死神（ ）になる。

アクロス

「あいつ……殺し合いに乗ったのか!？」

近くに死神魔姫が居たため、その様子を見ていたアクロス。

アクロス

「エンジェルとデビル、無事だと良いんだけどな……」

既に参加者名簿を見たアクロスは知り合いの安否が心配していた。

アクロス

「しかし……魔法が弱体化して……一体何が起きているんだ
ろうか……、それに……なんで1枚のコインが入って居るんだ
……」

何故かバックに入っ居た1枚のコイン。

勿論これでは役に立たない。

アクロス

「まあ武器があるだけましかな」

アクロスが持っているのは銃、しかもリボルバーだ。

アクロス

「・・・緊急の時に使うか・・・移動しようかな」

アクロスは移動を始めた、死神魔姫とは別の道を。

彼が見る道は、一体何が見えるのだろうか・・・。

死神の名のある者と知り合いの心配をする赤魔導師（後書き）

現在の状態（洞窟エリアD - 4）

死神魔姫

状態：正常

装備：ダガーナイフ

持っている物：バツクー式

思考：帰りたいから殺し合いに乗る

移動：洞窟エリアD - 4 C - 4

アクロス

状態：正常

装備：なし

持っている物：バツクー式、コイン@とある科学の超電磁砲、リボルバー（銃弾6 / 6）

思考：取り敢えず移動する

移動：洞窟エリアD - 4 E - 4

*能力が弱体化している事に気付きました。

@コイン

とある科学の超電磁砲に出てくる御坂美琴が持っているただのコイン

不屈の心(前書き)

登場人物

紀葉

不屈の心

紀葉

「どうしてこんな事になってるんだろう・・・」

紀葉は混乱していた。まずは普通の女の作者がこんな殺し合いに参加させられるとは思ってもよらなかった。

これは現実なんだと思いたくなかった。泣きたかった、でも泣きたくなかった。

紀葉

「そつだ・・・支給品を見ないと・・・」

紀葉は支給品が何か見てみようと思った。

紀葉

「これは・・・」

紀葉が見つけたのは赤色の綺麗な玉だった。どうやら魔力があるようだ。

紀葉

「これ何だろうっ?」

その赤色の玉をぎゅっと握り締めたその時だった。

???

『Hello』

紀葉

「え?何処から声がするの?」

???

『There is it in your hand』(貴方の
手の中に居ますよ)

紀葉

「手の中に?もしかして……この赤色の……貴方が?」

???

『Yes』

喋っていたのは紀葉が握りしめていた赤色の綺麗な玉だった。

紀葉

「ちよつと英語分からないから日本語表記にしてくれないかな?」

???

『分かりました、私はレイジングハートと言います』

紀葉

「レイジングハートって……リリカルなのは……」

レイジングハート

『はい、そうですマスター』

赤色の玉、レイジングハートはマスターと言った。

紀葉

「ちょっと待って！私は貴方のマスターじゃないよ!？」

レイジングハート

『私のマスターはここに居ないため、私を握り締めた貴方が現在の私のマスターです』

紀葉は少しの間考えた。絶対に主催者は許さない！私はこの殺し合いの打倒する為に動く。

紀葉

「レイジングハート、私頑張るから……この殺し合いの打倒に協力して欲しい！だから、私に力を貸して！」

レイジングハート

『了解しました、マスター』

レイジングハートの持ち主とは全然違うけど、紀葉は決めたのだ、絶対に諦めないと……。

紀葉

「不屈の心で……この殺し合いを打倒します……」 小さい声で

紀葉の心は屈しはしない。歩き始めた紀葉は笑顔だった。

不屈の心（後書き）

現在の状態（町エリアB-1）

紀葉

状態：正常

装備：なし

持っている物：バックー式、レイジングハート（待機モード）@魔法少女リリカルなのは

思考：不屈の心で殺し合いを打倒する

移動：町エリアB-1 A-1

@レイジングハート

魔法少女リリカルなのはの主人公、高町なのはの持つデバイス。カードリッジは3つ入っている。

悪魔と友達に・・・（前書き）

登場人物

デビル（黒井卓真）、宮薙煉華

悪魔と友達に・・・

デビル

「あの主催者、会った時には覚えてるよ・・・」

デビルこと黒井卓真は苛立っていた。いきなり殺し合いをしろと言えはこんな所に飛ばされ、更に苛立ちは隠せずにはいた。

デビル

「しかし・・・、アクロスは無事だろうな・・・」

知り合いの無事を信じつつ、彼は歩き続けた。

デビル

「あああ！！！！苛立ってきた！！！！」

そう言うとデビルは扉をガンツと蹴った。

???

「え！？なっ何ですか！？」

そこに居たのは1人の少女、少女は縮こまり、デビルに怯えていた。

デビル

「・・・ちっ」

デビルは少女の元から離れようと思ったが・・・。

???

「待ってください!」

少女が止めた。

デビル

「何だよ」

???

「名前を聞きたいんです!」

デビル

「なんで言わなきゃいけないんだよ」

???

「あ・・・えと・・・友達が欲しいから」

デビル

「俺は馴れ合いは大嫌いだ」

???

「でも……でも……」

デビル

「黙れ、殺すぞ」

デビルは少女に殺気を飛ばす。

???

「……」

デビル

「何も無いなら俺は行く」

???

「せ、せめて一緒に居てほしいんです！」

デビル

「言っただろう、俺は馴れ合いは大嫌いだ」

???

「ボク、怖いんです。誰かと一緒に居てほしいんです……馴れ合う事は考えていません」

デビル

「……デビル」

???

「え？」

デビル

「俺の名だ、デビルと呼べ」

煉華

「デビルさんですね？ボクは宮薙煉華と言います！」

悪魔の名を持つ者、黒井卓真は不思議な少女の宮薙煉華に出会う。

デビルの行動は吉と出るのか凶とでるのか……。

悪魔と友達に・・・（後書き）

現在の状態（町エリアE-4）

デビル

状態：正常

装備：なし

持っている物：バックー式

思考1：馴れ合いは嫌いだが仕方がなく煉華と一緒に居る

思考2：アクロスを見つけて、共に主催者を殺す

思考3：エンジェルに関しては一旦保留

移動：町エリアE-4で待機

*バックは見ていません。

宮薙煉華

状態：正常

装備：なし

持っている物：バックー式

思考1：友達が欲しいな・・・。

思考2：デビルと一緒に居たい

思考3：殺し合いには乗らない

移動：町エリアE-4で待機

*バックは見ていません。

絶望を探す者（前書き）

登場人物

棒人間、ディスプレイト

絶望を探す者

棒人間

「何で殺し合いがあるんだよ！理不尽すぎるだろう！」

棒人間は恐怖心に怯えていた。それもその筈、彼は臆病者で何事が起きても逃げたり、誰かを盾にしたりと結構卑怯者でもある。

棒人間

「うとう．．．生き残りたい．．．だけど、俺みたいな奴が生き残れるのか．．．」

???

「見つけた」

棒人間

「え？」

ズバツ！

棒人間

「なっ！」

いきなり棒人間の身体に大量の血が吹き出した。みてみたら、白い

髪の女が黒い斧のような物で切りつけていた。

棒人間

「何なんだよ！」

デイスペイト

「キャハハハ！あたしはデイスペイト、良いわね……貴方の絶望する顔……」

棒人間

「く……来るなあ！来るなあ！」

デイスペイト

「でももう良いや、死んじゃえ！」

デイスペイトは棒人間の首をスパツとはねた。

デイスペイト

「これ良いなあ、バルディッシュだっけ？使いやすいわ」

そう言うとデイスペイトは棒人間のバックを開けて支給品を調べた。

デイスペイト

「なんだ、ただのハンドガンじゃない、まあ何とかなるかな？」

デイスペイトはハンドガンを自分のバックの中に入れた。

デイスペイト

「さあ・・・次は何処に行こうかな？」

絶望を求む者は更なる絶望を持つ者を探すため動き始める。

棒人間 死亡確認 【残り39人】

絶望を探す者（後書き）

現在の状態（森エリアC-4）

デイスペイト

状態：正常

装備：バルディッシュ@魔法少女リリカルなのは

持っている物：バックー式、ハンドガン（12/12）

思考1：絶望を求めて歩く

思考2：この殺し合いを楽しむ

移動：森エリアC-4 C-5

@バルディッシュ

魔法少女リリカルなのはのキャラの1人、フェイト・T・ハラオウンが持っているデバイス、カードリッジは3つ入っている。

共に倒す者として（前書き）

登場人物

ryouki、阪神虎之介

共に倒す者として

ryouki

「ここは宮殿みたいだな・・・」

目が覚めた場所は宮殿エリアのryouki。と言っても宮殿の中ではなく、宮殿の近くにある木で目が覚めた。

ryouki

「殺し合いか・・・俺には出来ないよなあ・・・人は殺したくない」

そう言うとryoukiはバツクの中を調べ始めた。

41

ryouki

「わっ！なんだこれ!？」

出てきたのは先端が斧のような槍。

名前は戦斧『ハルバード』、斧で切ることも出来、先が槍なので突くことも出来る。

しかし、ryoukiは別の事を思っていた。

ryouki

「良くこんな長いもの入ったなあ・・・」

天然なのか本気なのか・・・。

ザツザツザツ・・・。

ryouki

「足音が聞こえる・・・誰だ！一体誰なんだ・・・」

ryoukiは殺し合いに乗っている者なのかも知れない、なので隠れる事にした。

阪神虎之介

「はあ・・・何でかな・・・」

ryoukiが足音が聞こえた人物は作者の阪神虎之介だった。

ryoukiは接触を試みる事にした。

ryouki

「話が見たいんです。良いですか？」

阪神虎之介

「わっ！吃驚しました・・・」

ryouki

「俺は殺し合いに乗ってないです」

阪神虎之介

「良かった、殺し合いに乗ってない人に来て良かった・・・」

2人は状況説明を始めた。そして、ある程度話が進み、内容は主催者の話へ・・・。

阪神虎之介

「主催者の疾風の音さんについてですが・・・」

ryouki

「その事だけど、俺は疾風の音さんは操られてると思っている」

阪神虎之介

「それはどう言う事だ！」

まさかの疾風の音洗脳論がryoukiの口から飛び出した。

ryouki

「じゃあ何故主催者が殺し合いの場に居るんだ？それ以前に、これだけの人数を彼1人で動かせる訳には行かないんだ」

阪神虎之介

「40人だったよな？確か・・・だが本当に主催者が疾風の音さんならどうするんだ！」

ryouki

「疾風の音さんの一人称は『俺』だった筈、なのに会場の中には一人称は『私』だった」

阪神虎之介

「確かに・・・」

ryouki

「ならやる事は1つ、疾風の音さんを見つけて、別の主催者を倒す。あくまで俺の推測だけだな」

阪神虎之介

「俺も行く、主催者は他に居るか・・・」

2人は疾風の音を探す為に歩き出す、殺す対象では無く、共に止める対象として。

共に倒す者として（後書き）

現在の状態（宮殿エリアB-2）

ryouki

状態：正常

装備：ハルバード

持っている物：バツク一式

思考1：疾風の音を探す

思考2：殺し合いには乗らないが相手が攻撃した場合は対処する

移動宮殿エリアB-2 B-1

*疾風の音は洗脳されていて、別の主催者が居ると考えていますが、あくまで推測です。

阪神虎之介

状態：正常

装備：なし

持っている物：バツク一式

思考1：疾風の音を探す

思考2：殺し合いには乗らない、脱出が目標

移動：宮殿エリアB-2 B-1

*宮殿はC-3にあります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8548z/>

作者とオリキャラのバトルロワイヤル

2011年12月29日10時52分発行